

全国協議会 ニュース

2018年2月1日発行 第308号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

このとりマリン基金 対象年齢・助成額を改定

若い女性患者さんが、将来赤ちゃんを授かる希望をもって治療に臨む手助けとなるよう、未受精卵子の採取・保存の経済的支援を行っている「このとりマリン基金」の助成内容を改定しました。

白血病などの重症血液疾患では、化学療法（抗がん剤）や造血細胞移植療法という極めて厳しい治療のために、妊娠が難しくなる患者さんが多くおられます。医療の進歩により「治療前などに卵子を採取・凍結保存し、何年後かに妊娠出産をめざす」ことが可能となっていますが、費用は全額自己負担です。

こうした中、2013年11月に東京マリンロータリークラブ様の深いご理解により、多額のご寄付が寄せられ「このとりマリン基金」が創設されました。これまで、問い合わせは100件、助成件数は24件、そして助成累

計額は572万円という実績です。問い合わせや助成件数・金額は、毎年増加し続けており、多くの患者さんに未来への希望と励ましとなっています。

このたび、当基金は対象年齢・助成額を改定いたしました。①原疾患治療後の出産が統計的に難しいことから、卵子採取年齢を35歳以下(未婚の方)とする。②基金財政が逼迫しているため、助成額を上限5万円とする。③患者相談員(MSW)からの推薦状の提出。④公的助成が得られることから、体外受精の支援はとりやめとする。などの変更をいたしました。

世帯収入の上限に変更はありません、何とぞ、みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

- ・採取時に35歳以下の(未婚)方。
- ・患者相談員(MSW)の推薦状を提出
- ・未受精卵子採取・保存のみを対象
- ・上限一人5万円
- ・実施日：2018年1月15日
(詳しくはホームページに掲載)

寄付のお願い

このとりマリン基金は、資金の枯渇が懸念されます。基金の継続のために、みなさまからのあたたかなご寄付をお願いいたします。

* 寄付金受入口座 *

ゆうちょ銀行 019(ゼロイチキョウ)
当座 0586461
名義 このとりマリン基金

基金給付を受けた方からの メッセージ

このとりマリン基金

娘は平成29年1月に急性リンパ性白血病を発症し、最初は本人も家族も何かが何かかわからない状況でした。そしてすぐに強い化学療法をうけて頑張っている時に、4月、大変な主人が、心労と疲労で急にたおれ、そのまま他界してしまいました。何で…と、途方に暮れるしかありませんでした。その時を思うとすぐに涙があふれます。

こんな試練が続いてしまった家族6人でとにかく頑張って生きていこうと決めました。亡き主人は娘のことが心配ですごく心残りだったろうと思います。天国で安心してもらう為に娘が完治できるようみんなでサポートしてい

きます。

今、経済的に大変な時期なので、このとりマリン基金を知り、また、助成していただき本当に感謝しています。ありがとうございます。これで娘が女性の幸せ、将来、子どもが授かれる可能性を残せたことがすごく嬉しいです。ありがとうございます。

(九州・沖縄地方在住)

昨年の夏、白血病を再発しました。その時、お金の心配もあり、卵子保存をするか迷いました。しかし基金があることを知り、周囲の勧めもあったので行うことにしました。基金がなければ諦めていたので、本当に感謝しています。ありがとうございます。

そしてドナーの方も決まり、もうすぐ移植をする事が出来ます。ドナーの方にも感謝でいっぱいです。ここまで

来られたのは、沢山の方のおかげです。応援してくれる方たちのためにも移植を頑張ります。(中部地方在住)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(1月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2017年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,452	3,010	482,191	723,376
患者登録者数	236	201	3,770	52,702
移植例数	96	85	—	21,488

■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,015人、献血併行型集団登録会/1,905人、集団登録会/36人、その他/54人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,171人/20代 72,028人/30代 138,254人/40代 206,577人/50代 61,161人

■12月の20歳未満の登録者344人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：420件

注)数値は速報値のため訂正される場合があります。

患者さんへのエール・ノボリ多数 箱根駅伝での街頭活動、全力応援！



東京・田町付近、一団となって力走する選手

2018年の年明け1月2日(月)、3日(火)の両日、全国協議会の最初の活動は、お正月の恒例行事「第94回東京箱根間往復大学駅伝競走」・箱根駅伝での街頭啓発活動から始まりました。今や関東だけでなく国民的な一大イベントとなった箱根駅伝は、テレビではNO1の視聴率を誇っています。

毎年、テレビでは「骨髄バンクのノボリ」が多数はためている様子の映像が流れ、全国の皆さんから「テレビで見たよ。今年も頑張っているね!」との声が届きます。今年も東京、埼玉、千葉などのボランティアの方々が沿道に立ち「骨髄バンク」のノボリを多数かかげて、駅伝選手への応援と患者さんへの励ましのエールを送りました。さらに、今年もプルデンシャル生命保

険株式会社の皆さまが300人以上も参加されて、普及啓発活動に大変なご協力をいただきました。箱根駅伝の沿道のコースには、2日間で延べ400人近くの方々が、寒さの中、ボランティア活動に馳せ参じてくださいました。心から感謝申し上げます。

この活動は、関東学生陸上競技連盟のご理解をいただき、箱根・宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行委員会の皆さま、読売センター小田原中央の皆さま、鈴廣蒲鉾株式会社様、箱根恵明学園様などのご協力に支えられて出来たものです。ノボリや啓発コーナーの設置、街頭啓発・募金活動にご協力いただいた全てのみなさまに厚く御礼申し上げます。東京・田町と箱根・宮ノ下での様子を写真でご紹介します。



手書きのノボリ 左・山口昇士箱根町長 右・牧島かれん衆議院議員



宮ノ下名物の「シチューパン」の仕上げに赤ワインを注ぐ山口町長(左)と牧島議員(右)



骨髄バンクをアピールする機会をいただきマイクでの呼びかけ



箱根・宮ノ下、選手の名前をコールする「宮ノ下スタイル」での応援



宮ノ下・ボランティアの集合写真



田町・ボランティアの集合写真

日本薬局学会学術総会
展示ブースでの啓発活動



11月25日(土)、26日(日)の2日間、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティで開催された第11回日本薬局学会学術総会の会場で、埼玉骨髄バンク推進連絡会の協力のもと、展示ブースでの骨髄バンク普及啓発活動を行いました。

一般社団法人日本保険薬局協会(会長・南野利久氏)は、全国の保険薬局(医師の処方箋に従い、調剤を行う薬局)の経営法人が会員となって構成されている団体で、毎年この学術総会を主催しています。この総会は、全国の薬局におられる薬剤師さんが研究発表

する場となっており、2日間で約7,000人も参加者があり大盛況でした。

今回、南野会長のご理解と、協会の社会貢献の一環としてはじめて学術総会の会場に展示ブースを設けてくださり、全国協議会及び「世界の子どもにワクチンを日本委員会」の2団体が参加しました。ブースでは、パンフレット・リーフレットの配布と募金の呼びかけをしました。全国の薬局のみなさんへの普及啓発の機会となり、今後に大きな励みとなりましたことに感謝申し上げます。

としまふれあいバザール

11月3日(火・文化の日)、東京・豊島区池袋西口公園で開催された恒例の「としまふれあいバザール」に今回も呼んでいただきました。ボランティアの方々から提供された古着やおも



ちゃなどを持って行き、バザールに参加しました。また、ステージで骨髄バンクの必要性をPRする時間も与えられ、買い物の手を休め、多くの方に聞いていただきました。当日は39,000円余りの売上寄付があり、年の瀬の12月末には主催の豊島区明るい社会づくりの会様が、全国協議会事務所にお見えになり、5万円をご寄付くださいました。

がん患者への妊孕性温存
公的助成制度の早期実現を!

2017年7月、日本癌治療学会は、医師は若年がん患者さんに対し〜がん患者の治療開始前に、妊孕性(にんようせい)温存について、適切な情報提供と専門医療機関を紹介すること〜などを、疾患ごとにきめ細かく対応するよう「小児・思春期・若年がん患者の妊孕性温存の診療ガイドライン」を公表しました。

また、同年10月には、国の第3期がん対策推進基本計画が閣議決定され「AYA世代(思春期・若年成人)がん対策」として、生殖機能等への影響などについて、患者への正確な情報提供・支援体制及び診療体制の整備が求められていることを明記しました。

こうした動きとともに、昨年6月26日の日本経済新聞(電子版)では、「卵子保存要望2600人」のニュースが配信されました。その内容は「厚生労働省研究班(班長・聖マリアンナ医科大学・鈴木直教授)のまとめで、女性がん患者で妊孕性温存が必要な患者さんは、年間2600人にのぼると推定される。卵子の凍結保存では、初期費用が20~40万円かかるが、全額自己負担で経済的負担が大きいと断念している方が多い。研究班は公的助成制度を設けるよう提言している。」とのことでした。

若いがん患者さんの妊孕性温存は、治療の一環であり、一日でも早い健康保険の適用がベストと思います。それまでの当面の間でも、公的な補助・助成制度を創り、全ての患者さんが公平に支援されることを願っています。関係者のみなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

2017年 日本骨髄バンクの実績 ドナー登録者数、移植件数とも増加

年間ドナー登録者数は3万4,491人となり、2年続けて3万人を超えています。特に、昨年10月以降はACジャンルのテレビ・ラジオ・広告キャンペーンが全国展開された効果により、増加傾向になっています。

年間骨髄移植件数は1,251件となりました。3年連続して減少していましたが、やや持ち直し傾向がみられ23

件増加しています。そのうち末梢血幹細胞件数は165件で、前年より40件増えており毎年増加しています。

ドナーコーディネート期間は中央値で116日となりました。過去3年間、コーディネート期間短縮化が叫ばれていましたが、ようやくその効果が表れはじめ前年より9日短縮されました。今後の成果が期待されます。

2017年の実績

○ドナー登録者数	34,491人	(31,918人)
○骨髄移植件数	1,251件	(1,228件)
(末梢血幹細胞移植件数)	165件	(115件)
○ドナーコーディネート期間※	116日	(125日)
(末梢血幹細胞移植の期間)	103日	(110日)

※ドナーコーディネート開始から採取までの日数

右側括弧書きは2016年の実績

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

埼玉

プロ野球選手をゲストに
読書感想文
コンクール表彰式

12月9日(日)、さいたま市浦和区・彩の国すこやかプラザにて第26回「いのちを考える」読書感想文コンクール表彰式を開催しました。

埼玉県内の小・中学生を対象に「骨髄バンクの普及啓発とともに、様々な病気や障害をもつ人がいること、いのちの大切さ、生きることの素晴らしさを知ってもらうため」に、読書感想文コンクールをはじめ26年が経ちました。

この26年間で、県内の多くの先生方のご理解とご支援、家族のご協力のおかげで、累計応募数は約14,900通に達しました。毎年、審査員はたくさんの感想文を丹念に読み、大変な審査作業を経て選考していますが、ひとり一人の豊かな感性に触れて感動を覚えています。どの感想文にも優秀は付け難いのですが、県の教育委員会の協力を得て特別賞(知事賞など)と優秀賞を選び、表彰しています。

今年は、小・中学生各5点の課題図書を選定して感想文を募集したところ、111通の応募があり、その中から特別賞5人、優秀賞7人を表彰しました。その中で、本年新たな課題図書である『甲子園がくれた命』(中村圭:著)を読んだ3人が受賞しました。

この図書のあらすじは「脳腫瘍を克服し、春の甲子園で日大三高を準優勝に導いた選手が教えてくれたものとは・・・。」で、そのモデルは、現在、プロ野球のオリックス・バファローズで活躍している山崎福也選手(投手・埼玉県所沢市出身)です。

今回、山崎選手が表彰式に特別ゲストとして出演し、受賞者の子どもたちとご家族、関係者の方々に、自身の闘病経験を語ってくださり、「自分だけでは生きていけない、病気の人に少しでも勇気を与えられたらと思って野球をしている。みんなに知ってもらえるプレイヤーになる。」と意気込みを語

てくれました。その後、記念撮影やサイン会が行われ、とても楽しい交流が続きました。

プロ選手のゲスト出演で、今までにない表彰式ができ、参加者のみなさんに大変喜んでいただきました。私たち会員も、元気をもらい来年への活力になった思いがしました。また、会場には活動資金作りのための手作り小物販売コーナーも設営し、少し華やかなクリスマス感も演出しました。山崎選手のこれからの活躍を楽しみにしています。(埼玉連絡会 笠原慶一)



表彰された小学生・中学生のみなさま、2列目左端・埼玉県疾病対策課・藤間達之副課長、2列目中央・山崎福也選手、2列目右端・笠原慶一

千葉

ケア帽子をプレゼント

千葉の会では、日東タオル株式会社様、赤十字奉仕団、ホトリボンアートの会などのご協力で、クリスマスにケア帽子を都内、千葉県内の11カ所の病院に届けました。抗がん剤の副作用での脱毛に悩む患者さんが、辛い時期を乗り切って笑顔になればという願いも届けています。各病院からのお礼状の一部を紹介させていただきます。

T病院 ①沢山のケア帽子をありがと

うございます。必要な患者様にお渡しし活用させていただきます。②毎年素敵な帽子をありがとうございます。段ボールの中の帽子を、バーゲンセールのように好みの帽子を持っていきます。A病院 ③患者さんが手に取りやすいようにカウンターに置いています。

早速一人の患者さんが手に取っていました。④通気性が良く柔らかいです。一つひとつが可愛らしく素敵なデザインの帽子から、皆様のお気持ちが伝わってきます。私たちもより良いケアを提供できますよう、一層の努力をして参ります。K病院 ⑤看護部が大変ありがたいと感謝しておりました。

千葉の会・ケア帽子担当 西島一恵

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】
田中孝美=岐阜

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日~1月20日(敬称略)

●一般	西島 一恵 現金 1,000円	●志村大輔基金	
メディカール光 現金 1,000,000円	鈴木 あや子 現金 20,000円	後藤 幸子 現金 20,000円	
豊島区明るい社会づくりの会	青野 文仁 現金 2,000円	志村 哲夫 現金 10,000円	
現金 50,000円	飛田 行康 現金 15,000円	杉山 みちえ 現金 5,000円	
ダブルエスタイガー	渋谷 俊徳 現金 6,000円	●募金箱	
現金 30,000円	山村 詔一郎 現金 3,000円	株式会社クスリのアオキ	
三井化学株式会社 ちびつとワンコ	鈴木 純子 現金 1,348円	現金 520,994円	
イン 現金 200,000円	若木 貞子 切手 1,800円	星子ひさし整形外科	
三井化学株式会社現金 200,000円	山村 詔一郎 切手 5,740円	現金 5,072円	
株式会社エアネット	匿名 現金 20,000円	コスモ石油労働組合	
現金 433,400円	匿名 現金 20,000円	現金 23,568円	
ガロのお客様 現金 2,860円	匿名 現金 5,000円	やきとり「おぼこ」現金 5,000円	
「ガロ」マイステージボックス(松沢・君和田・山口・石山・井口・佐藤・中島・進藤・稲坂・八木・矢野)	匿名 現金 3,000円	●かざして募金	
現金 6,220円	箱根駅伝宮ノ下募金箱	現金 13,300円	
	小田原一同 現金 4,283円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会